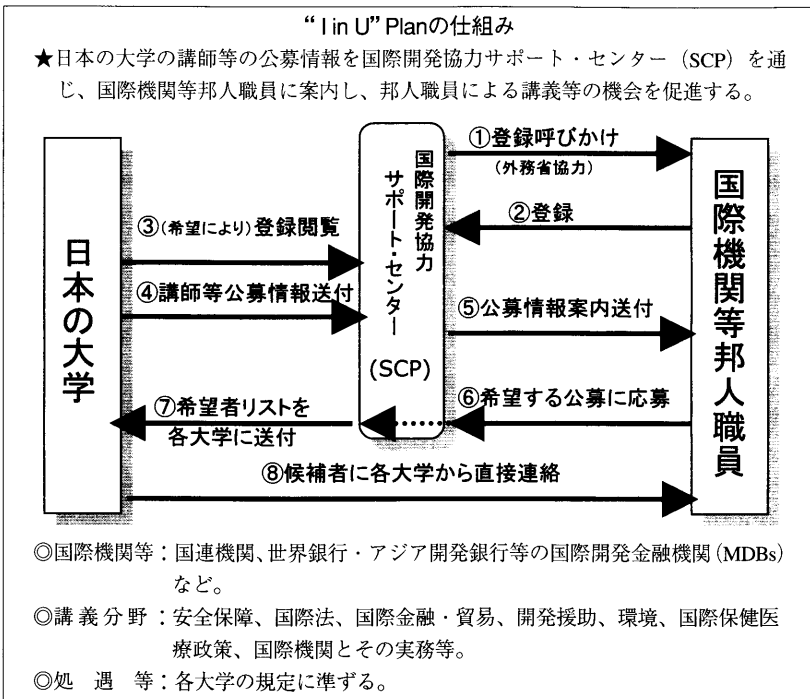


国際機関等に勤務する邦人職員による大学での講義等
 (“I in U” Plan : “International Organizations' Staff in Universities” Plan)
 文部科学省大臣官房国際課国際協力政策室

文部科学省では、外務省の協力の下、国際開発協力サポート・センターを通じて、国際機関等に勤務する邦人職員による大学での講義等 (“I in U” Plan) の仕組みを設けています。

本年度から実際に、“I in U” Planを活用した講義やシンポジウムが大学において実施されました。“I in U” Planの仕組みとこれまでの実績をご紹介します。



◆“I in U” Planとは

“I in U” Planとは、国際機関等に勤務する邦人職員が日本の大学の教壇に立ち、平和構築、紛争解決といったグローバルな課題について、実務家の視点から学生に講義することで、国際的な舞台上で活躍する人材の育成を目指すものです。

具体的には、一時帰国の際の夏期集中講義や特別講義、更には一定期間の任期付教員としての講義といった形態による実践的な教育の提供を期待しています。

◆これまでの実績

実際に“ I in U ” Planの仕組みを活用した実例の一部をご紹介します。

- ・三重大学人文学部の講義において、一時帰国中の国連世界食糧計画（FAO）の邦人職員による講義を行った。「農業・農村開発からみた途上国と国際協力」と題し、国際機関による途上国支援の話や、農村開発の専門的な分野に至ることまで実務家の視点に立った講義内容であった。
- ・福井大学において、「原子力に関する国際協力と地域の役割」と題したシンポジウムを開催。国際原子力機関（IAEA）に勤務経験のあるパネリストが参加し、原子力に関する専門的な内容や人材育成を通じた国際貢献の重要性を発信した。
- ・複数の大学が、国際関係の学部の助教授や講師等の募集情報を“ I in U ” Planの仕組みを活用して公募中。

現在、“ I in U ” Planに正式登録している国際機関の邦人職員数は49名ですが、その登録数は現在も増加しており、邦人職員の関心の高さが窺えます。また、所属国際機関は、国連本部、国連開発計画、国際原子力機関、ユニセフ、国連難民高等弁務官事務所、国連世界食糧計画、アジア開発銀行等、多岐にわたっています。

◆大学、国際機関の法人職員、学生のそれぞれの声

“ I in U ” Planを活用した講義等のメリットとはどのようなものなのでしょうか？

○大学の声

- ・カリキュラムの多様化が可能となる。特に地方大学にとっては、国際機関と接する機会がほとんどないので、このような仕組みがあると大変ありがたい。
- ・国際機関とのパイプができることで、将来的に、国際関係学部等でアドバイザーとしての活用が見込める等、大学における人材の選択の幅を広げることに繋がる。
- ・学生に刺激を与えることが重要であり、国際機関への就職に興味がない学生にとっても、多角的なものの見方を養うことに繋がることが期待できる。

○国際機関の邦人職員の声

- ・国際機関に勤める日本人職員が少ないと言われており、是非とも大学で講義することで人材育成の役に立ちたい。
- ・大学で講義した経験は、国際機関において評価される。また、自分自身のスキルアップに繋がり、大学と接点を持つことで、今後のキャリアパスの多様化の可能性が広がる。

○学生の声

- ・国際機関への就職に興味はあるが、身近に話を聞ける人がおらず、講義で直接に話を聞ける機会は貴重であった。
- ・世界の舞台上で活躍している様子を聞いて、大きな刺激を受けた。国際社会で日本の果たすべき役割が存在することを知り、そのためにできることはないか、今から積極的に考えてみたいと思う。

このように、各方面から好意的な反響が多数寄せられています。

【お問い合わせ】

大学教育の一層の充実の観点から、ご関心のある大学におかれましては、「国際開発協力サポート・センター」まで詳細をお問い合わせください（大臣官房国際課国際協力政策室までお問い合わせいただいても結構です）。また、随時公募情報もお寄せ下さい。

本件問い合わせ先：「国際開発協力サポート・センター」プロジェクト

E-mail : intlorg@scp.mext.go.jp

[http : //www.scp.mext.go.jp/iu/index.htm](http://www.scp.mext.go.jp/iu/index.htm)